

From
Doctor

市民病院の医師が

皆さんの悩みに答えます！

市民病院で皆さんから寄せられる
病気の質問に医師が答えます。

A.Q.

舌がんはどんな病気？

舌がんとは舌にできるがん
のことです。

症状としては、口内炎のような潰瘍が出現することが多い病気です。知名度の低い病気でしたが、ある有名な舌がんになったという報道があったから受診する人が急に増えてきました。

A.Q.

どうして舌がんになるの？

喫煙や飲酒が主な原因と考
えられています。

A.Q.

どう治療するの？

市民病院では舌がんを含む
口腔（こうくう）がんに対
して、切らない治療を実施
しています。

手術でがん組織を取り除くことが標準的な治療法ですが、舌がんが進行すると、舌を半分以上切除しなければならぬこともあります。他の部位を移植しても手術前のように舌が動かないために、会話や食事の飲み込みに障害がでることが多くなることから、当院では切らない治療を実施しています。

A.Q.

切らない治療って何？

超選択的動注化学放射線療法です。

当院では2006年からこの療法を実施してきました。耳の前にある浅側頭動脈から舌の動脈にカテーテルと呼ばれる細い管を入れて、高濃度の抗がん剤を流すとともに放射線照射をする治療法です。その結果ほとんどの舌がん患者さんにおいて、舌を切除することなくがんを治すことができました。

メリット

- ・約90%の患者さんにおいて手術することなく舌がんを含む口腔がんが治癒
- ・5年生存率は約78%と非常に良い成績

デメリット

- ・最低でも2か月間の入院が必要
- ・舌や周囲の粘膜に非常に強い粘膜炎が生じ、激しい痛みが伴うため鎮痛剤が必要
- ・治療中は食事が摂れなくなる

A.Q.

治療後はどうなるの？

治療が終了してから1、2か月ほど経過
すると、舌の粘膜炎の痛みはほぼ回復し
ます。食事も再び摂れるようになります。

この治療法と手術療法を比較すると治療成績はほぼ同等ですが、手術の傷跡もなく舌組織がそのまま残るので、味を感じたり話したりする舌としての機能や見た目において格段に優れています。

Interview



歯科 口腔外科
部長 丹下和久

以前のがん治療は命が救えれば良い時代でした。

しかしこれからは治療後にどのように生きるか、治療後の生活の質（QOL）も考慮しなければなりません。舌がんを含む口腔がんに関して当科が実施している超選択的動注化学放射線療法は、治療後のQOLに優れた方法だと考えています。皆さんや周りの人が口腔がんになった場合、ぜひともこの治療法を考えてみてください。